

平成23年度「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書

宇都宮市立清原北小学校 2012・3・16

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

「人間尊重の教育」を基盤に、自ら考え正しく判断し、豊かな心をもってたくましく生きる児童を育成する。

【考え深く】

【こころ豊かで】

【たくましく】

- | | | | | | | |
|-----|---|------------|---|----------------|---|----------------|
| 活用期 | ○ | 自ら考え工夫する子 | ○ | こころ豊かで思いやりのある子 | ○ | 気力と体力のあるたくましい子 |
| 基礎期 | ○ | 自分で考え学習する子 | ○ | 親切で思いやりのある子 | ○ | 元気でがんばる子 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

『小規模特認校として、保護者や地域から信頼され協力し合いながら、夢と理想をもって共に成長していく学校』

- 児童一人ひとりが目当てをもって、生き生きと学習や活動に取り組み、成就感や達成感を味わうことのできる学校
- 児童のよさや個性が発揮でき、お互いに認め合い、励まし合いながら伸びていこうとする気風が満ちている学校
- 児童自らが、体力・健康・食を関連付けた望ましい生活習慣を身に付け、気力と体力が充実している学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ① 小規模特認校として、学校・家庭・地域が互いに連携し信頼関係を深め、小中一貫教育の基本方針により学校力を高める。
- ② 個に応じたきめ細かな指導により、基礎学力の定着を図る。
- ③ 児童と達成感や成就感を共有し合うことにより、「学ぼうとする力」を育成する。
- ④ 課題解決や目標達成のための資質・能力「自己実現力」を育成する
- ⑤ 認め合い、励まし合い、協力し合える豊かな人間関係を構築し、「よりよく生きようとする力」を育成する。
- ⑥ 体力・健康・食に関する望ましい生活習慣を構築し、心身共に「健康的な生活を創ろうとする力」を育成する。
- ⑦ 専門職として自己研修に努め、教科・学級・学校経営の適正化を図り、協働性を高める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

- 小規模特認校7年目となり、基礎学力の充実を図り地域でよりよく生きようとする児童の育成を目指すことにより、保護者や地域との信頼・協力関係の向上を図る。

（児童生徒指導）

- 基本的な生活態度を身に付け、善悪の区別ができる規範意識をもった児童の育成

（健康・体力）

- 体力・健康・食を関連付けた望ましい生活習慣をもった児童の育成

（学習指導）

- 進んで他者と関わりながら音楽を楽しもうとする児童の育成

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の【全】は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。【全】 【数値指標】 MアンケートA1における肯定的回答80%以上	○ 学び方の指導、学びの記録充実、教育相談及び保護者との懇談の工夫により、主体的で前向きな学習習慣及び学習意欲の向上を図る。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 90.9% 保護者の肯定的回答95.6% 【次年度の方針】 学校と保護者の連携が建設的なものであることが重要であり、あらゆる機会を通してコミュニケーションを強化していく。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。【全】 【数値指標】 MアンケートA2における肯定的回答80%以上	○ 学校及び学級経営の課題の明確化、共有化を図り、組織的・継続的に教育課程を実践する。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 99.1% 保護者の肯定的回答88.5% 【次年度の方針】 個々の学級経営に差があり、総体としての学校力が生かせない実態があり、児童・保護者を受け止めた学級経営の充実を図る。

学校運営の状況	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA4における肯定的回答80%以上	○ 日常的な学級経営の中心に、規則・規範意識の向上、その行動化の目標を設定し、児童指導の強化を図る。	A 【達成状況】児童の肯定的回答 86 % 保護者の肯定的回答 79.8 % 【次年度の方針】 基本的な生活習慣定着のため、学級を核として他学年との関連、保護者の理解・協力・連携を強化する。
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA5における肯定的回答80%以上	○ 学習に対する個人的目標・集団的目標・家庭学習の目標を設定し、継続的に努力する学習環境を充実させる。	A 【達成状況】児童の肯定的回答 94.2 % 保護者の肯定的回答 82.4 % 【次年度の方針】 児童の実態把握が基本であり、実態を他教員・保護者と共有し、児童の実態から始める学力向上に努める。
	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA6における肯定的回答80%以上	○ 教師の多忙感、児童の学習疲労の状況を把握し、学校生活のリズムの構築及び行事、分掌の精選に取り組む。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 95 % 保護者の肯定的回答 98.2 % 【次年度の方針】 実施・運営面での状況把握を的確にし、実質的に教育効果を高めることができる教育課程の運用に努める。
	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA7における肯定的回答80%以上	○ 学校を開いたことにより、顕在化してきた保護者や地域のニーズを具体的な教育活動として実践する。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答 98.2 % 地域の肯定的回答 95 % 【次年度の方針】 保護者や地域のニーズに対する説明責任を果たしながら、連携・協力が図れる双方向的な学校づくりに取り組む
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA8における肯定的回答80%以上	○ 地域各実行委員会が企画・運営し、学校の特色ある教育活動となっている「3連携プログラム」の充実を図る。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答 95.6 % 地域の肯定的回答 95 % 【次年度の方針】 学校が地域に期待すること明確にし、保護者・地域が学校に期待することを的確に受け止め、教育課程に位置付ける努力を継続する。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA10における肯定的回答80%以上	○ 児童の学習や生活の場、また、地域が活用できる公共の場としての校舎内外の環境整備に努める。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 96.7 % 保護者の肯定的回答 94.7 % 【次年度の方針】 防災対策も含め、児童の安全・安心確保のための施設・設備・環境整備に努める。
	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA11における肯定的回答80%以上	○ 短期的・中期的な学校課題の明確化・共有化を図り、組織的な対応を通して、教職員の資質の向上を図る。	A 【達成状況】保護者の肯定的回答 83.3 % 【次年度の方針】 個々の自己研修や学校課題研修を充実させ、個々の指導力の向上及び組織としての指導力の向上を図る。
	B1 地域学校協議会の充実を図る。 【数値指標】 MアンケートA18における肯定的回答80%以上	○ 地域学校協議会の活動内容及び運営状況を広く公表し、意見を求めることにより協議会の活性化を図る。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答 93.8 % 地域の肯定的回答 97.5 % 地域学校協議会での協議内容及び活動内容の公開性を強化するとともに、学校経営への参画強化を図る。

教育活動の状況	生 活	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA12における肯定的回答80%以上	○ 具体的な言葉の使い方及び言葉を使う心の両面指導を重視し、学校・家庭・地域が連携した継続的な指導を実践する。	A	【達成状況】児童の肯定的回答 94.2% 保護者の肯定的回答75.4% 【次年度の方針】 児童への直接的な指導を継続するとともに、保護者や地域（地域学校園）における啓もう活動に取り組む。
	健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA14における肯定的回答80%以上	○ スクスクプラン実践において学級活動や委員会活動等児童の主体的な活動を充実させ、自らの生活を創る力の育成を図る。	A	【達成状況】児童の肯定的回答 80.3% 保護者の肯定的回答84.2% 【次年度の方針】 通常の給食指導の工夫・強化に取り組むとともに、地域学校園における「朝食のすすめ」「お弁当の日」を活用した保護者の意識向上に努める。
	学 習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 MアンケートA16における肯定的回答80%以上	○ 絶対評価や相対評価を生かした確かな児童理解、個に応じた指導内容、児童の変化に対応した迅速な指導方法を実践し学力向上を図る。	A	【達成状況】児童の肯定的回答 85.2% 保護者の肯定的回答85.9% 【次年度の方針】 学年の系統性や関連性を明確にし、継続的な指導を強化するとともに、個の実態や個の変化に対応した指導に努める。
本校の特色・課題等		B2 コミュニケーション力の育成に努めている。 【数値目標】 A19における肯定的回答80%以上	○ 会話科のカリキュラムの再構築及び他教科、領域との関連を明確にし、統合的・継続的にコミュニケーション力の育成を図る。	A	【達成状況】児童の肯定的回答 92.6% 保護者の肯定的回答74.5% 【次年度の方針】 より実践的なコミュニケーション力育成のため、児童の実態（習得状況・興味関心等）を的確に把握した、指導内容・指導方法の改善に努める。

〔総合的な評価〕

- ・宇都宮市マネジメント評価において85%以上の肯定的な回答を得た項目数は、児童生徒評価15／17、保護者評価11／19、地域住民12／17、そして、教職員17／19であり、全体として児童・保護者・地域・教職員とも学校教育に対する満足度及び達成感が高い。
- ・あいさつの励行や生活のきまりの徹底、学習習慣や基本的な生活習慣の形成には児童の実態や学年間の系統性を明確にし、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担いながら、連携して継続的に指導の充実を図っていく必要がある。
- ・満足度や達成感には、学年間の差もあり個々の教職員の指導力（学習指導力・児童指導力・学級経営力）の向上をさらに図っていく必要がある。

6 学校関係者評価

- ・恵まれた自然環境や人的資源を有効に活用し、特色ある教育活動が推進されている。
- ・会話科が全市で実施されるようになり、本校ならではの特色が薄れていく。宇都宮大学との連携は、さらに充実したカリキュラムの構築に期待が持てる。
- ・今年度は震災の影響で、体育館が使用できない期間があったり、地域連携の行事で中止や自粛されたものがあったが、学校と地域が共に知恵を出し合い、絆を深めることができた。特に、「船頭物語」で、子供たちからの《がんばろう板戸・がんばろう清北》のメッセージは感動的だった。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・小規模特認校としての役割を十分果たしているとの評価を受けているが、今後も、学校・保護者・地域がコミュニケーションを密にし、それぞれの役割を明確にして主体的に活動し、成果を上げる仕組みの充実を図っていくことが重要である。
- ・学校・保護者・地域が連携した取り組みが、子供の成長にどのように寄与しているのか、評価の方法も含めて、子供の成長を中心とした特色ある学校づくりを進めていくことが重要である。

